

http://www.yukan-fuji.

「いとしいたべもの」

世界文化社 1470円

内容 卵の上に自分でカゴメトマトケチャップをかけるオムライスの味わい、スペイン出身の俳優、アントニオ・バンデラスとくさんやの共通点、夜更けにたまらなく恋しいどん兵衛きつねうどん…。ほかにブルドックソース、カレーパン、サッポロ一番味噌ラーメンなど21品の食べ物にまつわる話が登場する。



「読んだ人が、すぐ食べたい」と心がはやるように書きたい。ポルノ(小説)でも、よく書けたものを読むとムラムラしてあると思う。食欲も性欲に近いから「今すぐ、コートを買ってどん兵衛」を羽織って「切羽詰った気持ちになるように」と

「食べるって、単に栄養を入れるだけじゃなくて、食べたときに匂いや歯ざわりで、それまで生きてきた場面を思い出して

「典奴」懐かしの味

― 食べるとは？

― 本ではナスを切る「ダスダス」という音など描写が実にリアル

(三保谷浩輝)

森下典子さん著「いとしいたべもの」は、懐かしい食品、料理が続々と登場し、昭和30-40年代に育った人には、とくにしみじみ味わえる本。かつて週刊誌コラムで突撃取材の「典奴」として勇名をはせた著者自身が、幼いころからの食べ物体験を思い出したつづりにつづったエッセー集だ。



森下典子さん



もりした・のりこ 1956年、横浜市生まれ。日本女子大文学部在学中から週刊朝日コラム「デキゴトロジ」の取材で「典奴」として人気に。連載をまとめた「典奴どすえ」も出版。ルポライター、エッセイストとして著書「デジデリオ・ラビンス」「日日は好日」などがある。

舌も人生も冒険を

― 食欲が強いと性欲も強い
「セックスも食も、生き方の縮図みたいなものですから」
― くさやの魅力を(俳優 項参照)もユニーク…
「味ってすごく表現が難しいから、みんなに共通する思い出しはしっこをつなぎあわせて、

「食べ物について改めて感

じたことは

「食べ物話って盛り上がるんですよ。お毛は(揚げ物に)しよゆなの? とか人とつながりやすい。私は一人じゃないんだって、癒やされ感がありますね。同じ食べ物でも味が違ったりするのは、自分の思いや一緒に食べる人の話が食べ物に降りかかっているからじゃないかと思う」

― 年齢とともに味覚も変わる…

「私も最近、鮎の塩焼きに酔をかけたもののおいしさがわかって、ああ成長したって(笑)。わからなかった味がわかる。そのときの世界の広がる

成長すると「苦み」がわかるように

「わからないけど、子供のときの甘いから、すっぱい、辛くなって味がわかって、最終的に苦いってわかるんやと思う。木の芽のてんぷらのはる苦さとか、コーヒ、ビールとか。何が成長するんですよ。だから、食わず嫌いは冒険がないと思う。味覚が甘まいと人生もせまくなる、舌も人生も冒険してほしい」

― ちなみに、森下さんの嫌いなものは?

「おつまみの干し貝柱と子供のころ、好きで食べ過ぎて…干し貝柱と葉に出しただけで…」

― 8冊目の著書「本を書いているときは大体つらい。できないかもって思いながら、途中でフツと『大丈夫』と思う瞬間がある。そうなる、最後は馬の直線コースでムチが入ります状態になっちゃって、すっごく楽しいですね」